ＡｎｓｅｒＤＡＴＡＰＯＲＴ®

JX 手順 サービス仕様書【加入者編】

2.1 版

令和 7 年 2 月

株式会社 NTTデータ

NTT DATA confidential

AnserDATAPORT®　JX 手順　サービス仕様書　改訂履歴

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	-	–	ドラフト版　新規作成	-	-
2	-	–	1.0版　新規作成	-	-
3			以下余白		

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

【誤記等に伴う改版（1.0 版　⇒　1.1 版）】

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	コピーライト		誤記修正	Copyright© 2016-2023 NTT DATA CORPORATION	Copyright© 2023 NTT DATA CORPORATION
2	2.3.1.(4)金融機関から加入者への通知事項	2-5	記述改善	Basic認証で使用するユーザ名	Basic認証で使用するユーザ名*2 （欄外に、以下の脚注を追加） （注）*2 Basic認証で使用する（データ種別単位の）ユーザ名（31桁）は、以下設定とする。 AAAAAAAAAAAAAAA-BBBBBBBBBBBBBB-C ↑　↑ハイフン　↑ハイフン ・A（14桁）：　金融機関側URI（金融機関センタ確認コード） ・B（14桁）：　加入者側URI（加入者センタ確認コード） ・C（1桁）　：　データ種別　（「0」：依頼、「1」：返却、「9」：照合） なお、Basic認証ファイルパスワード（6桁）、照合識別コード（6桁）を金融機関から払い出す場合は、あわせて通知対象とする。
3				【項番6】 金融機関側識別子 【項番7】 加入者側識別子 【項番8】 ドキュメント形式 【項番9】 ドキュメント種別	削除 （接続インタフェース解説書【加入者編】 3.2. 本システムへの送信インタフェース、3.3. 本システムからの受信インタフェースに、記載の通りのため、払い出し対象外とする）
4				－	【項番6】 委託者コード を追加。
5	3.1.1.(1)加入者センタから金融機関サービスへのファイル伝送	3-2	留意事項追加	－	C.依頼データの送信（図3.1-2の①）時の留意事項 (A)依頼データの送信タイミングの分散化について 特に、午前中の、10:00、10:30、11:00、11:30など、切り良い時刻のみに、サービスが集中する傾向があるので、本システムの負荷分散を図るため、加入者センタ確認コード（14桁）の下1桁などにより、加入者毎のシステム的なファイル送信時刻（の下1桁）を、分散指定*1することが望ましい。 （注）*1　分散指定の詳細は、各お取引の金融機関様へ、ご照会ください。 ＜設定例＞ 加入者センタ確認コード：01234567890123 が、10時10分に依頼する場合 システム上の依頼時刻　　10:13分

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
6	3.1.1.(2)金融機関サービスから加入者センタへのファイル伝送	3-3	留意事項追加	－	B.結果取得依頼（図3.1-3の①）時の留意事項 (A)結果取得依頼の送信タイミングの分散化について 特に、午前中の、10:00、10:30、11:00、11:30など、切り良い時刻のみに、サービスが集中する傾向があるので、本システムの負荷分散を図るため、加入者センタ確認コード（14桁）の下1桁などにより、加入者毎のシステム的な結果取得依頼時刻（の下1桁）を、分散指定*1することが望ましい。 また、未取得ファイルがあるタイミングに限定して、結果取得依頼を実施すること。 その際、ポーリング間隔の推奨値は、20～30分とする。（最短ポーリング間隔は、10分） なお、1ファイル取得後に未取得ファイルが残っている場合は（「配信ファイル無し」のエラー応答となるまで）連続取得することは可能とする。 （注）*1　分散指定の詳細は、各お取引の金融機関様へ、ご照会ください。
7	3.1.3.(1)A.取扱可能文字コード	3-7	記述改善	表 3.1-2 使用可能文字コード （注）*1 改行コードについて、本システムではCR、LF、CRLFを許容する。 ただし、pain002（pain001から転載するXMLタグ項目）に、改行コードが含まれていた場合は、改行コードを削除する場合がある。	表 3.1-2 使用可能文字コード （注）*1 改行コードについて、本システムではCR、LF、CRLFの集信を許容する。 ただし、改行コードが含まれていた場合は、本システム上で（タグの内外を問わず、ファイル上のすべての）改行コードを削除する。 このため、加入者センタへの配信ファイル上では改行コードは含まれない。
8	3.1.3.(1)B.(A)予約文字	3-7	記述改善	予約文字(“&”等)については、実体参照による置き換えとする。 予約文字一覧を「表 3.1-3 予約文字一覧」に示す。	予約文字(“&”等)については、実体参照を利用する場合のみ入力可能とする。このため、数値（文字）参照の接頭文字列となる(“&#”)は入力不可とする。 予約文字一覧を「表 3.1-3 予約文字一覧」に示す。
9	3.2.1.(2)チェック処理	3-10	記述改善	C.チェックエラー時の後処理	C.依頼データのチェック結果の確認 依頼データ送信時にエラーが発生していないか10分程度間隔を開けて、結果ファイルが返却されていないことを確認することが望ましい。 D.チェックエラー時の後処理

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
10	3.2.2.照合	3-13	記述改善	－	表 3.2-3 照合有無に応じた処理概要 （注）*1 照合データのファイルサイズは（依頼データサイズにかかわらず）小さいので、依頼データの後から照合データを送信しても、依頼データより先にチェックが完了し格納される可能性がある。 この場合、依頼（pain1）未受領NG（MCH-ID01(02600)）のエラーとなるため、再度、照合依頼が必要となる。 このため、依頼データ送付後、数分の間隔を開けてから、照合データを送付する事が望ましい。
11	3.3.1.(2)B.照合	3-21	記述改善	－	表 3.3-4 照合時の機能差異 【項番2】 受付チェック を追加。
12	裏表紙		誤記修正	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	株式会社NTTデータ
13			以下余白		

【誤記等に伴う改版（1.1 版 ⇒ 1.2 版）】

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	2.2.本システムのサービス時間	2-3	記述改善	（注）*1 ただし、接続に時間を要し、受信処理の開始時点でサービス時間を超過している場合は、伝送を異常終了する。	（注）*1 ただし、加入者サービス終了後に伝送中のデータがあった場合、30分後に強制的に伝送を終了する。 また、接続に時間を要し、受信処理の開始時点でサービス時間を超過している場合は、伝送を異常終了する。
2			以下余白		

【誤記等に伴う改版（1.2 版 ⇒ 1.3 版）】

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	2.1.1.サポートデータ	2-2	誤記修正	表 2.1-2 サポートデータ一覧 Foreign remittance	表 2.1-2 サポートデータ一覧 Foreign Remittance
2	2.3.1.(4)金融機関から加入者への通知事項	2-5	記述改善	【項番2】 本番・テスト用[*1]	【項番2】 本番・テスト用[*1] （項番3にネストしている部分の罫線を削除）
3	3.1.2.(2)A.（A）起呼方向の関係	3-5	記述改善	表 3.1-1 加入者センタ通信方向（JX手順） 【項番 配信時】 GetDocument GetDocumentResponse ConfirmDocument ConfirmDocumentResponse	表 3.1-1 加入者センタ通信方向（JX手順） 【項番 配信時】 (1コネクション目)GetDocument GetDocumentResponce (2コネクション目)ConfirmDocument ConfirmDocumentResponse

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
4	3.3.1.(1)加入者センタテストのサポートデータ	3-20	誤記修正	表 3.3-1 サポートデータ一覧 Foreign remittance	表 3.3-1 サポートデータ一覧 Foreign Remittance
5			以下余白		

【誤記等に伴う改版（1.3 版 ⇒ 2.0 版）】

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	3.2.1.(1)C.取引制限	3-9	誤記修正	表 3.2-1 取引が制限される加入者センタの状態 【項番2】 Basic認証エラーが一定回数に到達し、もしくは金融機関にて閉塞をかけることにより、加入者センタ情報、またはファイル情報が伝送を規制する閉塞扱いとなった状態。詳細は「3.2.1.(3) 伝送の規制と解除」参照。	表 3.2-1 取引が制限される加入者センタの状態 【項番2】 Basic認証エラーが一定回数に到達し、もしくは金融機関にて閉塞をかけることにより、ファイル情報が伝送を規制する閉塞扱いとなった状態。詳細は「3.2.1.(3) 伝送の規制と解除」参照。
2	3.2.1.(3)A.閉塞の種類と本システムの動作	3-11	誤記修正	閉塞には、「加入者センタ閉塞」、「データ種別閉塞」の2種類がある。閉塞の種類と概要を「表 3.2-2 閉塞の種類と概要」に示す。	閉塞には、「データ種別閉塞」がある。閉塞の種類と概要を「表 3.2-2 閉塞の種類と概要」に示す。
3			誤記修正	表 3.2-2 閉塞の種類と概要 【項番1】 加入者センタ閉塞 加入者センタ 閉塞した加入者センタは、以降のファイル伝送をエラーとする。）	表 3.2-2 閉塞の種類と概要 【項番1】 行削除。以降行は項番の繰り上げ。
4			以下余白		

【誤記等に伴う改版（2.0 版 ⇒ 2.1 版）】

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
1	2.3.1.(4)金融機関から加入者への通知事項	2-5	記述改善	【項番7】接続先URL 備考 －	【項番7】接続先URL 備考 http通信（ポート番号 80）
2	3.1.1.(1)C.(B)0バイトファイルの送信可否について	3-2	記述改善	－	(B)0バイトファイルの送信可否について 本システムでは0バイト（空ファイル）の依頼データの送信を許容する。 その際、返却される結果データは、FC1-MS03(00200) ファイルサイズNGエラーとなる。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

項番	章	頁 （更新後）	改訂理由	改訂前	改訂後
3	3.1.3.(1)B.(A)予約文字	3-7	記述改善	予約文字(“&”等)については、実体参照を利用する場合のみ入力可能とする。 このため、数値（文字）参照の接頭文字列となる(“&#”)は入力不可とする。 予約文字一覧を「表 3.1-3 予約文字一覧」に示す。	予約文字(“&”等)については、実体参照を利用する場合のみ入力可能とする。 このため、数値（文字）参照の接頭文字列となる(“&#”)は入力不可とする。 また、桁数は実態参照の桁数（4～6桁）ではなく、予約文字の桁数（1桁）としてカウントされる。 予約文字一覧を「表 3.1-3 予約文字一覧」に示す。。
4	3.2.3.(5)圧縮形式	3-18	記述改善	本システムはパスワードなしのZIP形式で圧縮したファイル*1を加入者へ送信する。	本システムは、依頼データを圧縮ありで送付した場合は、パスワードなしのZIP形式で圧縮したファイル*1を加入者へ送信する。 なお、依頼データを圧縮なしで送付した場合は、圧縮なしのファイルを加入者へ送信する。
5	別紙_業務フロー一覧 1.1.(4)金融機関センタ集信～加入者センタ配信（本システムが返却データ作成）	14	誤記修正	図1.1-7 本システムが返却データ作成フロー2 ①GetDocument ② ③GetDocumentResponse ④ConfirmDocument ⑤ConfirmDocumentResponse	図1.1-7 本システムが返却データ作成フロー2 ⑬GetDocument ⑭ ⑮GetDocumentResponse ⑯ConfirmDocument ⑰ConfirmDocumentResponse
6	別紙_業務フロー一覧 1.2.エラー時のフロー	17	誤記修正	表1.2 2 チェック項目一覧 1 加入者センタ閉塞チェック 加入者センタ情報が伝送を規制する閉塞扱いとなっていないことのチェックを行う。	表1.2 2 チェック項目一覧 1 行削除。
7				表1.2 2 チェック項目一覧 1 企業解除日付チェック 加入者契約情報（加入者センタ情報）が解約済みでないことのチェックを行う。	表1.2 2 チェック項目一覧 1 行削除。
8				以下余白	

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

目次

1. 概要 1-1
1.1. 本システムの目的 1-1
1.2. システムの特徴 1-1
1.3. システム構成 1-2
1.3.1. システム構成概要 1-2
1.3.2. 構成一覧 1-3
1.4. 制限事項 1-3
2. 基本サービス仕様 2-1
2.1. ファイル伝送サービス 2-1
2.1.1. サポートデータ 2-2
2.2. 本システムのサービス時間 2-3
2.3. 加入者契約情報管理 2-4
2.3.1. 加入者の体系 2-4
2.3.2. 加入者契約情報の更新方法 2-6
3. ファイル伝送サービス 3-1
3.1. 基本事項 3-1
3.1.1. サービス概要 3-1
3.1.2. 通信回線と通信種別 3-4
3.1.3. 文字コード 3-7
3.1.4. 加入者センタ起呼による同時接続数 3-8
3.2. 加入者センタ向けサービス 3-9
3.2.1. 加入者センタ集信 3-9
3.2.2. 照合 3-13
3.2.3. 加入者センタ配信 3-17
3.3. 試験機能 3-19
3.3.1. 加入者センタテスト 3-19

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

1. 概要

1.1. 本システムの目的

本システムは金融機関と企業間における決済データの授受において、高セキュリティのファイル伝送サービスを提供することを目的とする。

また、外国送金にかかる代表的な決済ネットワークであるSWIFT（国際銀行間通信協会）が、2023年3月から2025年11月にかけて、外国送金のデータフォーマットを新たな統一フォーマットであるISO20022*1へ移行していくことを発表している。そのため、各金融機関は2025年11月までにISO20022へ移行することが求められており、本システムにおいてもISO20022の外国送金フォーマットの授受をサポートするよう対応を行う。

（注）*1　XMLを主要なデータ記述言語として利用する。金融通信メッセージの国際規格を指す。

1.2. システムの特徴

本システムの特徴を以下に示す。

(1) Connecureによる伝送サービスの提供

加入者センタと本システム間のファイル伝送は、NTTデータが提供するConnecureを介して行うことで、金融機関毎に敷設していた加入者回線の一元化、仕様の標準化を実現する。また、大量データの高速伝送、および高セキュリティ伝送を実現する。

(2) セキュリティへの対応

依頼データの照合やパスワードエラーによる閉塞機能等、第三者や悪意のあるユーザから情報を守る機能を提供する。

(3) ISO20022への対応

XMLを主要なデータ記述言語として利用する、金融通信メッセージの国際規格である、ISO20022に対応し、加入者センタと本システム間においてJX手順での伝送をサポートする。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

1.3. システム構成

1.3.1. システム構成概要

本システムのシステム構成概要を「図 1.3-1 システム構成概要」に示す。

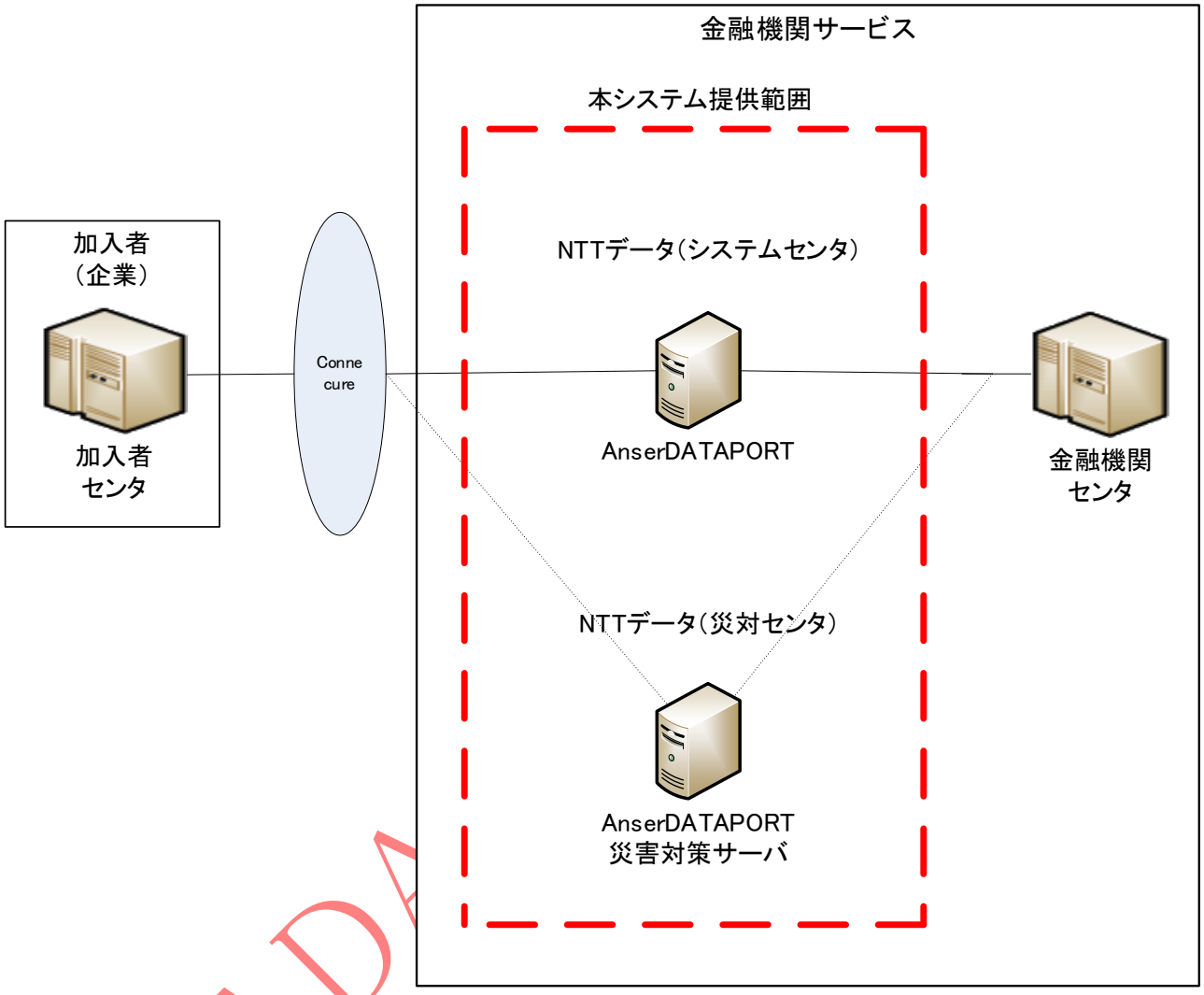

図 1.3-1 システム構成概要

NTT DA

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

1.3.2. 構成一覧

本システム、および関連システムの構成一覧を「表 1.3-1 システム構成一覧」に示す。

表 1.3-1 システム構成一覧

項番	対象	説明
1	金融機関センタ	金融機関は本サービスを加入者へ提供する提供主体であり、その金融機関が保有するセンタ。本システムとのデータ授受を行う。
2	AnserDATAPORT	加入者センタと金融機関センタの間に立ち、ファイル伝送を行うシステム。
3	AnserDATAPORT 災害対策サーバ	AnserDATAPORTの災害対策用サーバ。被災時に本サーバに切り替わることで、業務継続を可能とする。
4	Connecure	NTTデータが加入者向けに提供するネットワークサービス。 詳細は『Connecure サービス仕様書』を参照。
5	加入者センタ	本システムを利用する加入者（企業、自治体）のシステム。本システムとのデータ授受を行う。

1.4. 制限事項

ファイル伝送のピーク日、ピーク時のデータ集中によるシステム高負荷状態により、加入者へ影響を与えないよう、同時接続数や取引データ量をはじめとする、トラフィックに関する要素に対しては、制限を設ける。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

2. 基本サービス仕様

2.1. ファイル伝送サービス

ファイル伝送サービスは、本システムを介して加入者センタがファイルの送受信を行うサービスである。本システムが提供するファイル伝送サービスの概要を「表 2.1-1 ファイル伝送サービス概要」に示す。なお、各ファイル伝送サービスの詳細については「3.ファイル伝送サービス」を参照。

表 2.1-1 ファイル伝送サービス概要

項番	サービス対象	サービス名称	サービス内容
1	加入者センタ	加入者センタ集信	依頼データを加入者センタから本システムへ送信する。本システムでは依頼データのチェックを行い、本システムに格納する。
		照合	依頼データに対応する照合データを加入者センタから本システムへ送信する。本システムでは依頼データと照合データにより照合を行う。
		加入者センタ配信	加入者センタからの配信要求を元に、本システムでは返却データ*1を加入者センタへ送信する。

(注)*1 返却データは、金融機関センタで作成を行う場合と、本システムで作成を行う場合がある。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

2.1.1. サポートデータ

JX手順におけるファイル伝送サービスにおいてサポートするデータを「表 2.1-2 サポートデーター覧」に示す。また、サポートデータの流れについて「表 2.1-3 データの流れ」に示す。

表 2.1-2 サポートデーター覧

項番	取引種別	データ種別	データ分類	ビジネス文書の形式	ビジネス文書の種別	データ説明	使用するXMLファイル形式
1	外国送金	依頼明細（外国送金）	依頼データ	Foreign Remittance	Foreign Remittance Request	外国送金を行うための依頼データ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02（head.001.001.02） ・CustomerCreditTransferInitiationV09（pain.001.001.09）
2		照合データ（外国送金）	照合データ		Match	依頼データ（外国送金（依頼明細））と照合を行うためのデータ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02（head.001.001.02） ・本システムで規定する照合フォーマット
3		処理結果明細（外国送金）	返却データ		Foreign Remittance Result	外国送金の結果データ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02（head.001.001.02） ・CustomerPaymentStatusReportV03（pain.002.001.10）

表 2.1-3 データの流れ

項番	データ分類		データの流れ	
			加入者センタ	金融機関サービス
				本システム / 金融機関センタ
1	依頼データ			→ →
2	照合データ			→
3	返却データ	金融機関センタで作成		← ←
4		本システムで作成		←

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

2.2. 本システムのサービス時間

本サービスのご利用可能時間は、月曜日～金曜日（祝日、1月2日～3日、12月31日を除く）の以下の時間の範囲内で金融機関毎に設定する。サービス時間については金融機関へ確認する必要がある。

また、サービス時間内に本システムが依頼データを受信開始していれば、サービス時間を超過しても本システムは依頼の実行を保証する。*1

項番	項目	定義	取引種別	時間
1	加入者センタ集信時間	データ送信可能な時間です。	外国送金	7:00 ～ 21:00
2	加入者センタ配信時間	データ取得可能な時間です。	外国送金	7:00 ～ 21:00

（注）*1 ただし、加入者サービス終了後に伝送中のデータがあった場合、30分後に強制的に伝送を終了する。
また、接続に時間を要し、受信処理の開始時点でサービス時間を超過している場合は、伝送を異常終了する。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

2.3. 加入者契約情報管理

2.3.1. 加入者の体系

加入者が本サービスを利用するためには、金融機関への申込を必要とする。申込をもとに、金融機関により加入者センタ情報、ファイル情報、委託者情報を本システムに登録する。JX手順を利用する加入者センタ情報、ファイル情報、委託者情報の関係を「図 2.3-1 本サービスにおける加入者の概念図」に示す。

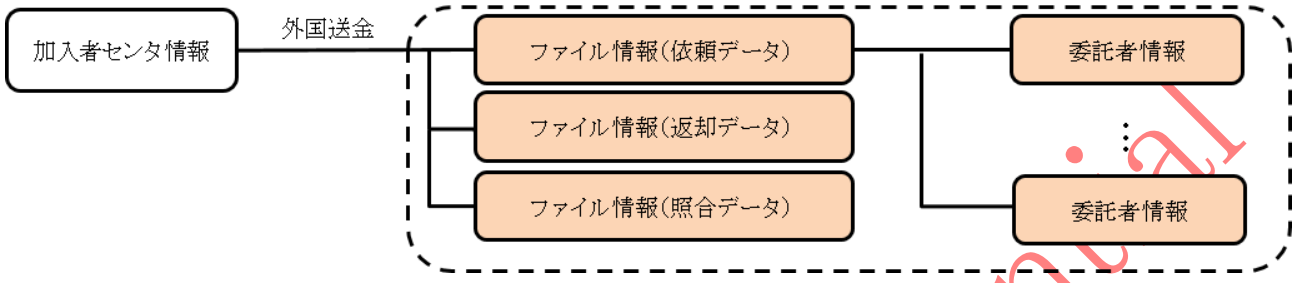

図 2.3-1 本サービスにおける加入者の概念図

(1) 加入者センタ情報

加入者センタの契約情報(加入者名称、利用開始日、利用終了日等)およびファイル伝送に必要となるURI*1等を保有する。

加入者センタ情報は、利用開始日から利用終了日当日まで有効である。

(注)*1 インターネット上のリソース(データやサービス、機器等)の所在情報、および識別情報を指す。

「Uniform Resource Identifier」の略称。

本システムにおける利用について詳細は「(4) 金融機関から加入者への通知事項」や「3.1.2.(2)A. (B) URIの管理」を参照。

(2) ファイル情報

加入者センタが取扱うデータ種別毎にファイル情報を登録する。ファイル情報にはファイル伝送に必要となるBasic認証情報等を保有する。

ファイル情報は、利用開始日から利用終了日当日まで有効である。

(3) 委託者情報

加入者センタが取扱うデータ種別に対し、そのデータ種別で使用する委託者コードを委託者情報に登録する。委託者情報を設定するファイル情報は、依頼データのファイル情報のみとする。

また、委託者コード毎に適用開始日、適用終了日の設定を必須とする。

A. 本システムにおける委託者情報の用途

(A) 加入者センタ集信

依頼データに設定されている委託者コードが、伝送時の加入者センタ情報配下に存在しているかのチェックおよび、依頼データに設定されている指定日が、適用開始日から適用終了日の範囲内であるかのチェックを行う。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(4) 金融機関から加入者への通知事項

サービスを利用するうえで必要となる情報を、金融機関より通知する。

項番	通知項目	内容説明	備考
1	サービス利用開始日	利用開始日以降、サービスの利用が可能となる。	
2	本番・テスト用*1		
3	Basic認証ユーザ	Basic認証で使用するユーザ名*2	金融機関へのお問合せの際にお申し出いただくコード。データ種別単位に設定を行う。
4	金融機関側URI	金融機関側のURI（金融機関センタ確認コード）	○依頼データ・照合データ時 JX手順のsoap headerの「To」に設定する。 ○返却データ時 JX手順のsoap headerの「To」に設定する。
5	加入者側URI	加入者側のURI（加入者センタ確認コード）	○依頼データ・照合データ時 JX手順のsoap headerの「From」に設定する。 ○返却データ時 JX手順のsoap headerの「From」に設定する。
6	委託者コード	ファイル伝送サービスでデータ伝送を行う際に必要な情報	依頼データ（pain001）上に設定する、委託者を特定するコード（10桁）。
7	接続先URL	加入者センタが本サービスに接続する際に必要な情報	http通信（ポート番号 80）

（注）*1　電文への設定について詳細は『AnserDATAPORT® JX手順接続インタフェース解説書【加入者編】』を参照。

（注）*2　Basic認証で使用する（データ種別単位の）ユーザ名（31桁）は、以下設定とする。

AAAAAAAAAAAAAA-BBBBBBBBBBBBB-C

↑ ハイフン　　↑ ハイフン

・A（14桁）：　金融機関側URI（金融機関センタ確認コード）

・B（14桁）：　加入者側URI（加入者センタ確認コード）

・C（1桁）：　データ種別　（「0」：依頼、「1」：返却、「9」：照合）

なお、Basic認証ファイルパスワード（6桁）、照合識別コード（6桁）を金融機関から払い出す場合は、あわせて通知対象とする。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

2.3.2. 加入者契約情報の更新方法

加入者契約情報について、新規、変更、解約等の申込みは、各金融機関へ行う。その後、金融機関センタより、本システムに対して加入者契約情報の更新を行う。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3. ファイル伝送サービス

3.1. 基本事項

3.1.1. サービス概要

(1) 加入者センタから金融機関サービスへのファイル伝送

加入者センタ集信、照合により、加入者センタで作成した依頼データを本システムで受け付ける。受付後、即時に金融機関センタでの処理を開始する。照合を行う場合の処理イメージを「図 3.1-1 照合を行う場合の加入者センタから金融機関サービスへの伝送概要」に示す。照合を行わない場合の処理イメージを「図 3.1-2 照合を行わない場合の加入者センタから金融機関サービスへの伝送概要」に示す。

なお、照合の利用有無については金融機関へ確認する必要がある。

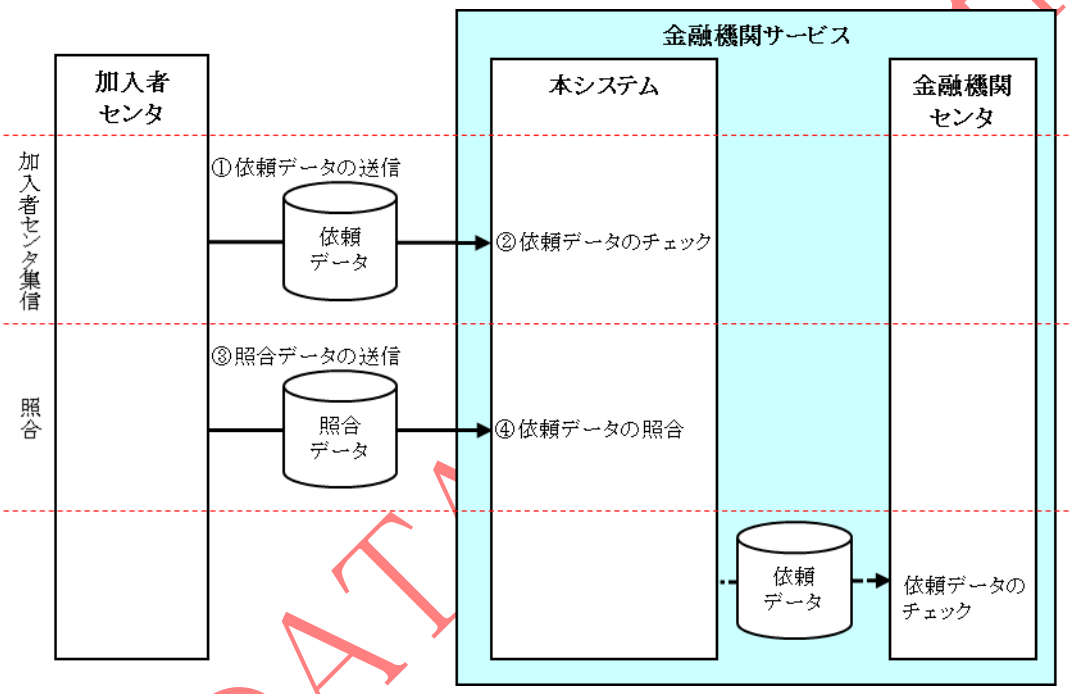

図 3.1-1 照合を行う場合の加入者センタから金融機関サービスへの伝送概要

A. 照合を行う場合

(A) 加入者センタ集信（図3.1-1の①～②）

① 依頼データを、加入者センタから本システムへ送信する。

② 加入者センタから受信した依頼データに対し、フォーマットチェック、受付可能期間内チェック等を行い、本システムに格納する。

(B) 照合（図3.1-1の③～④）

③ 依頼データに対応する照合データを、加入者センタから本システムへ送信する。

④ 加入者センタから受信した照合データに対し、フォーマットチェック、受付可能期間内チェック等を行い、本システムに格納してある依頼データと照合データで照合を行う。照合データに設定された合計件数等が、依頼データの内容と一致した場合に、依頼データを受付済とする。

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

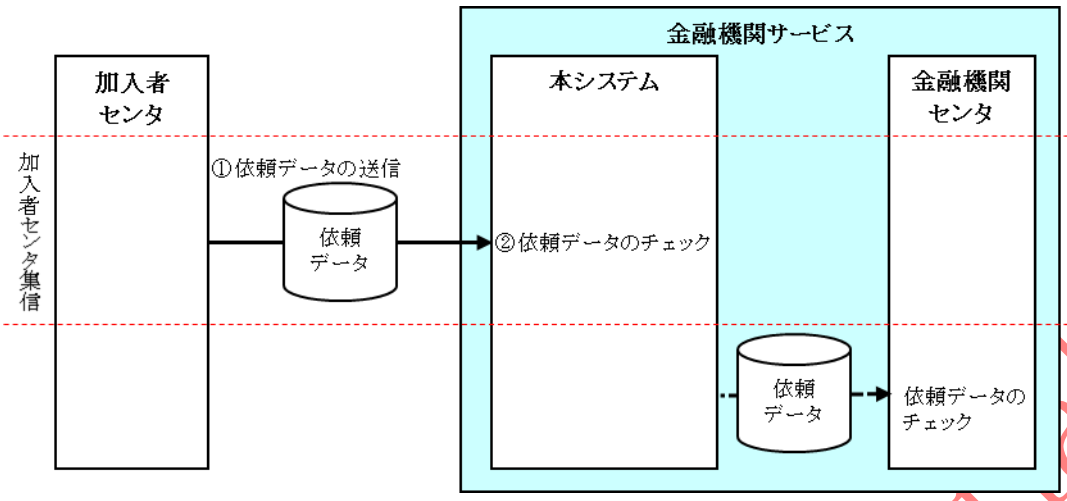

図 3.1-2 照合を行わない場合の加入者センタから金融機関サービスへの伝送概要

B. 照合を行わない場合

(A) 加入者センタ集信(図3.1-2の①～②)

① 依頼データを、加入者センタから本システムへ送信する。

② 加入者センタから受信した依頼データに対し、フォーマットチェック、受付可能期間内チェック等を行い、本システムに格納し受付済とする。

C. 依頼データの送信(図3.1-2の①)時の留意事項

(A) 依頼データの送信タイミングの分散化について

特に、午前中の、10:00、10:30、11:00、11:30など、切り良い時刻のみに、サービスが集中する傾向があるので、本システムの負荷分散を図るため、加入者センタ確認コード(14桁)の下1桁などにより、加入者毎のシステム的なファイル送信時刻(の下1桁)を、分散指定*1することが望ましい。

(注)*1 分散指定の詳細は、各お取引の金融機関様へ、ご照会ください。

＜設定例＞

加入者センタ確認コード:01234567890123 が、10時10分に依頼する場合

システム上の依頼時刻 10:13

(B) 0バイトファイルの送信可否について

本システムでは0バイト(空ファイル)の依頼データの送信を許容する。

その際、返却される結果データは、FC1-MS03(00200) ファイルサイズNG エラーとなる。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(2) 金融機関サービスから加入者センタへのファイル伝送

金融機関センタまたは本システムで作成した返却データを加入者センタへ送信する。処理イメージを「図 3.1-3 金融機関サービスから加入者センタへの伝送概要」に示す。

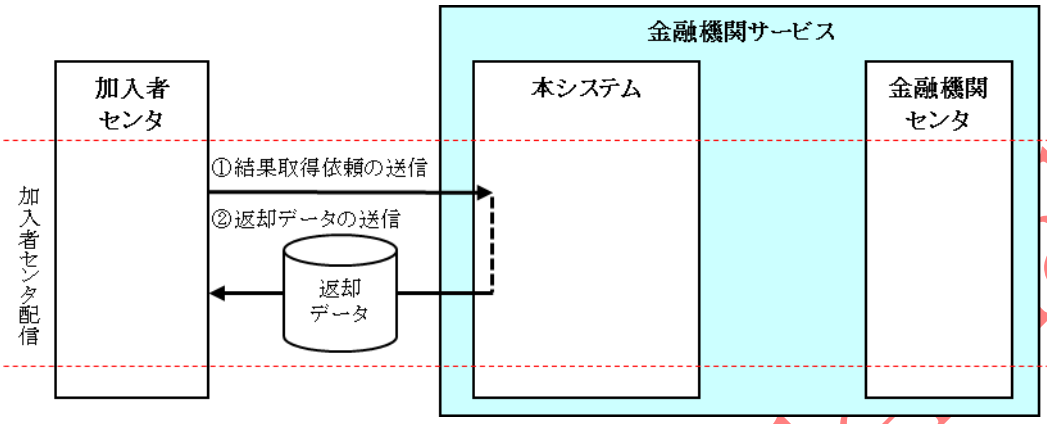

図 3.1-3 金融機関サービスから加入者センタへの伝送概要

A. 加入者センタ配信(図3.1-3の①～②)

① 企業から本システムへ結果取得依頼を送信する。

② 本システムは、金融機関センタまたは本システムで作成した返却データ*1を加入者センタへ送信する。

(注)*1 それぞれの場合の処理イメージについて詳細は別紙『業務フロー一覧』を参照。

B. 結果取得依頼(図3.1-3の①)時の留意事項

(A) 結果取得依頼の送信タイミングの分散化について

特に、午前中の、10:00、10:30、11:00、11:30など、切り良い時刻のみに、サービスが集中する傾向があるので、本システムの負荷分散を図るため、加入者センタ確認コード(14桁)の下1桁などにより、加入者毎のシステム的な結果取得依頼時刻(の下1桁)を、分散指定*1することが望ましい。

また、未取得ファイルがあるタイミングに限定して、結果取得依頼を実施すること。

その際、ポーリング間隔の推奨値は、20～30分とする。(最短ポーリング間隔は、10分)

なお、1ファイル取得後に未取得ファイルが残っている場合は(「配信ファイル無し」のエラー応答となるまで)連続取得することは可能とする。

(注)*1 分散指定の詳細は、各お取引の金融機関様へ、ご照会ください。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.1.2. 通信回線と通信種別

JX手順で行う取引について本システムとの接続構成を「図 3.1-4 接続構成図」に示す。

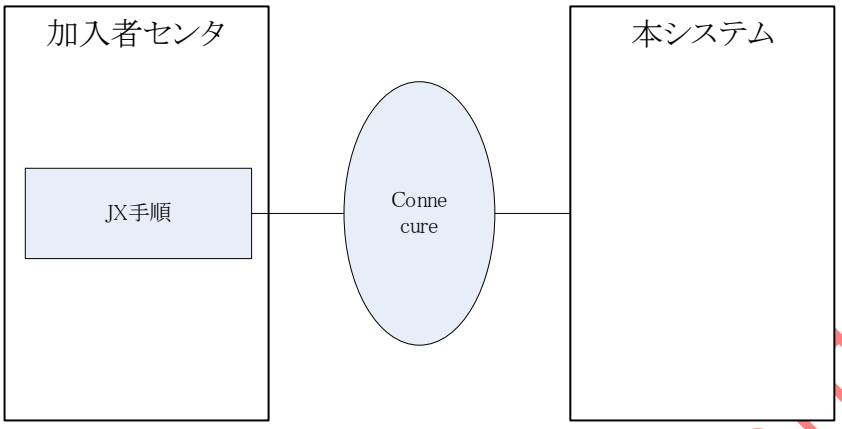

図 3.1-4 接続構成図

(1) 通信回線

A. 加入者センタ

加入者センタと本システムを接続する回線は、NTTデータが提供するConnecureを使用する。
なお、回線については最大1Mbpsを前提とする。
詳細は『Connecure サービス仕様書』を参照。

(2) 通信種別

加入者センタ、本システム間でXML形式のファイルを伝送する場合について、本システムはJX手順での伝送をサポートする。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

A. JX手順

(A) 起呼方向の関係

a. 加入者センタと本システム間

JX手順による加入者センタと本システム間のデータ送受信は、いずれも加入者センタからの起呼により行う。JX手順における通信のイメージを「表 3.1-1 加入者センタ通信方向(JX手順)」に示す。

表 3.1-1 加入者センタ通信方向(JX手順)

項番	通信方向		発生契機
	加入者センタ	本システム	
集信時	PutDocument →		加入者センタは、PutDocumentメッセージで、本システムに依頼データや照合データを送信する。
	← PutDocumentResponse		本システムは、加入者センタに受信結果としてPutDocumentResponseメッセージを送信する。
配信時	(1コネクション目) GetDocument →		加入者センタは、GetDocumentメッセージで、返却データの取得を依頼する。
	← GetDocumentResponse		本システムは、GetDocumentResponseメッセージで、加入者センタに返却データを送信する。
	(2コネクション目) ConfirmDocument →		加入者センタは、本システムに受信完了通知としてConfirmDocumentメッセージを送信する。
	← ConfirmDocumentResponse		本システムは、加入者センタに受信完了確認通知としてConfirmDocumentResponseメッセージを送信する。

本システムは、加入者センタの依頼を受信した後、受信時のチェック*1が完了した時点で、企業への応答として加入者センタ集信であればPutDocumentResponse、加入者センタ配信であればGetDocumentResponseを送信する。

(注)*1 プロトコル準拠のチェックやBasic認証等、一部チェックを実施する。受信応答前後のチェックについて、詳細は別紙『業務フロー一覧』の「表 1.2-2 チェック項目一覧1」、「表 1.2-3 チェック項目一覧2」を参照。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(B) URIの管理

ファイル伝送を行う場合、接続先を表す項目としてURI(センタ確認コード)が必要となる。このURI(センタ確認コード)の採番管理について記載する。

a. 加入者センタが使用するURI

加入者センタと本システム間のJX手順でのファイル伝送時に使用するURI(センタ確認コード)は、金融機関への申込時、金融機関で任意のコード値が採番される。*1

URI(センタ確認コード)は「表 3.1-1 加入者センタ通信方向(JX手順)」に記載の各メッセージの送信元にて、Fromに当方URI、Toに相手URIを設定して利用する。

本システムと加入者センタにおけるURIの関係を「図 3.1-5 加入者センタのURI対応概要」に、伝送時のURI使用イメージを「図 3.1-6 加入者センタ伝送時のURI」に示す。

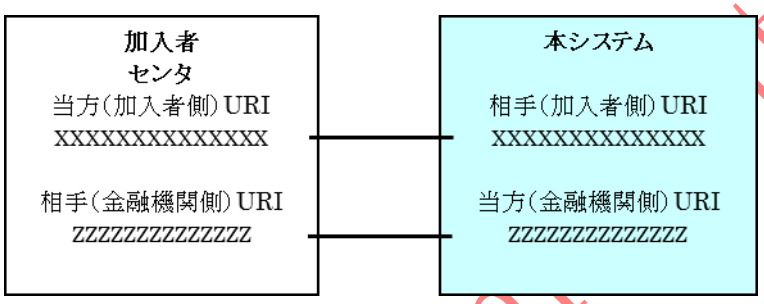

図 3.1-5 加入者センタのURI対応概要

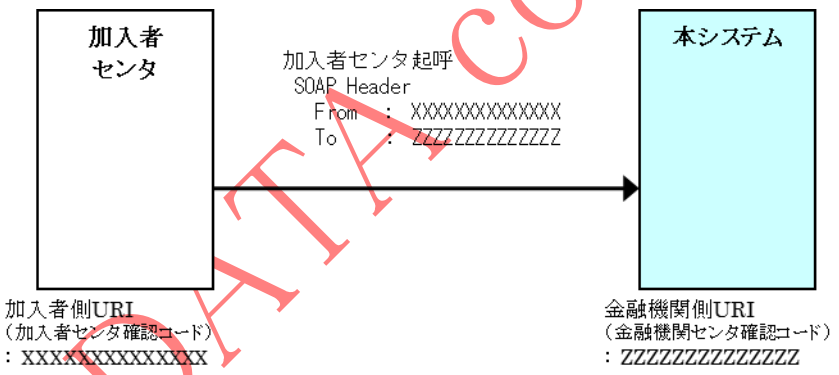

図 3.1-6 加入者センタ伝送時のURI

(注)*1 「金融機関側URI(金融機関センタ確認コード)＋加入者側URI(加入者センタ確認コード)」の単位で重複することのないよう任意のコード値を採番する。URI(センタ確認コード)は本システムで加入者契約情報の加入者センタ情報に登録される。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.1.3. 文字コード

(1) 加入者センタ集配信の場合

A. 取扱可能文字コード

Unicode(UTF-8)より、1バイトコードの範囲を使用可能文字とする。
使用可能文字を「表 3.1-2 使用可能文字コード」に示す。

表 3.1-2 使用可能文字コード

		上位桁(16進)															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
下位桁(16進)	0			(SPC)	0	@	P	`	p								
	1			!	1	A	Q	a	q								
	2			"	2	B	R	b	r								
	3			#	3	C	S	c	s								
	4			$	4	D	T	d	t								
	5			%	5	E	U	e	u								
	6			&	6	F	V	f	v								
	7			'	7	G	W	g	w								
	8			(	8	H	X	h	x								
	9	(HT)		)	9	I	Y	i	y								
	A	(LF)*1		*	:	J	Z	j	z								
	B			+	;	K	[	k	{								
	C			,	<	L	¥	l	|							
	D	(CR)*1		-	=	M	]	m	}								
	E			.	>	N	^	n	~								
	F			/	?	O	_	o									

(注)網掛けは未使用。カッコ書きは制御文字。赤字については「3.1.3.(1) B.文字コード変換」を参照。
(注)*1 改行コードについて、本システムではCR、LF、CRLFの集信を許容する。
ただし、改行コードが含まれていた場合は、本システム上で(タグの内外を問わず、ファイル上のすべての)改行コードを削除する。このため、加入者センタへの配信ファイル上では改行コードは含まれない。

B. 文字コード変換

本システムではJX手順で送受信するデータについてUnicode(UTF-8)を前提として取り扱い、文字コード変換を実施しない。加入者センタは、以下に注意してデータを作成すること。

(A) 予約文字

予約文字("&"等)については、実体参照を利用する場合のみ入力可能とする。
このため、数値(文字)参照の接頭文字列となる("&#")は入力不可とする。
また、桁数は実態参照の桁数(4～6桁)ではなく、予約文字の桁数(1桁)としてカウントされる。
予約文字一覧を「表 3.1-3 予約文字一覧」に示す。

NTT DATA con

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

表 3.1-3 予約文字一覧

項番	予約文字	意味	実体参照
1	&	アンパサンド	&
2	<	小なり	<
3	>	大なり	>
4	″	二重引用符	"
5	’	引用符	'

3.1.4. 加入者センタ起呼による同時接続数

1加入者あたりの本システムへの同時接続可能数を1接続とする。*1そのため、加入者は複数の接続をしないよう制御すること。

また、本システムは複数の加入者センタの同時接続数に上限を設ける。上限を超えて加入者センタから起呼を受付けた場合、本システムへの接続は不可となる。

加入者センタにて、タイムアウト等のエラーが想定されるため、一定時間経過後に自動リトライを設定する等、加入者センタは改めて起呼を行うものとする。

（注）*1 1Connecure回線あたり1多重を推奨する。1Connecure回線で複数IPアドレス利用される場合、IPアドレス単位で1多重の通信も可能だが、スループットが低下するため非推奨。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.2. 加入者センタ向けサービス

3.2.1. 加入者センタ集信

依頼データを加入者センタから本システムへ送信する。本システムでは依頼データのチェックを行い、本システムに格納する。処理のイメージは別紙『業務フロー一覧』を参照。

(1) 基本事項

A. 集信単位

「金融機関センタ＋データ種別」の単位で送信を行う。

B. 集信契機

加入者センタからの起呼により、加入者センタ集信時間の範囲内で随時可能とする。

C. 取引制限

本システム内で加入者センタが特定の状態にあるとき、サービスの利用を不可とする。一覧を「表 3.2-1 取引が制限される加入者センタの状態」に示す。

表 3.2-1 取引が制限される加入者センタの状態

項番	加入者センタの状態	説明	該当時の動作
1	解約済	サービスの解約により、加入者契約情報（加入者センタ情報、またはファイル情報）の解約を行い、解約時に指定した利用終了日を経過した状態（利用終了日の翌日から解約済となる）。	HTTP通信エラーを送信
2	閉塞中	Basic認証エラーが一定回数に到達し、もしくは金融機関にて閉塞をかけることにより、ファイル情報が伝送を規制する閉塞扱いとなった状態。詳細は「3.2.1.(3) 伝送の規制と解除」参照。	HTTP通信エラーを送信

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(2) チェック処理

本システムは依頼データの送信に対し、認証等のプロトコル準拠のチェックを実施して正常応答を返却し、その後の処理で業務部のデータの正当性チェックを行う。

受信応答前後のチェック内容一覧は別紙『業務フロー一覧』の「表 1.2-2 チェック項目一覧1」、「表 1.2-3 チェック項目一覧2」を参照。

エラーとなった処理のイメージは別紙『業務フロー一覧』の「図 1.2-1 加入者センタ集信(依頼)エラーフロー」、「図 1.2-3 加入者センタ集信(依頼電文)エラーフロー」を参照。

A. チェック内容

(A) データ種別毎のチェック

依頼データのフォーマットチェック等、データ種別に応じたチェックを行う。

チェックの詳細は別紙『業務フロー一覧』の「表 1.2-2 チェック項目一覧1」、「表 1.2-3 チェック項目一覧2」を参照。

(B) 明細数のチェック

本システムは、依頼データ内の明細数が送金依頼情報単位*1に1件以上であることのチェックを実施し、また、依頼データ全体での明細数が本システムで規定する上限件数*2以内であることのチェックを行う。

(注)*1 <PmtInf>タグ配下を対象とする。

(注)*2 上限件数については金融機関への確認を必要とする。

(C) 受付可能期間内チェック

依頼データに設定された指定日が、金融機関の設定する受付可能期間内であるかのチェック*1を行う。受付可能期間は受付開始日から受付時限の間とし、受付時限は「加入者センタ＋データ種別」の単位に変更される。受付可能期間の設定内容については金融機関への確認を必要とする。

(注)*1 指定日が時刻を含めて設定されている場合においても、受付可能期間内チェックは日付部分のみを参照して行う。

B. チェック単位

送金依頼情報*1単位に行う。送金依頼情報のうち1つでもエラーとなった場合は、本システムではファイル全量を受付エラーとする。

(注)*1 <PmtInf>タグ配下を対象とする。

C. 依頼データのチェック結果の確認

依頼データ送信時にエラーが発生していないか10分程度間隔を開けて、結果ファイルが返却されていないことを確認することが望ましい。

D. チェックエラー時の後処理

チェックエラー時の後処理チェックでエラーが発生した場合、本システムはエラー情報を保管しておき、加入者センタからの結果取得依頼を受けてエラーデータを返却する。エラー時に再度依頼データを送信する場合でも、加入者センタは異なる最新のメッセージIDを指定する必要がある。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(3) 伝送の規制と解除

本システムでは閉塞機能により加入者センタのファイル伝送を規制することが出来る。

A. 閉塞の種類と本システムの動作

閉塞には、「データ種別閉塞」がある。閉塞の種類と概要を「表 3.2-2 閉塞の種類と概要」に示す。

表 3.2-2 閉塞の種類と概要

項番	閉塞の種類	閉塞指定単位	閉塞時の本システムの動作
1	データ種別閉塞	加入者センタ＋データ種別	閉塞したデータ種別は、以降のファイル伝送をエラーとする。

B. 閉塞の設定

(A) 自動設定

a. データ種別閉塞の自動設定

Basic認証エラーをカウントし、一定回数に到達した場合に自動的にデータ種別閉塞の状態とする。自動設定が発動するエラー回数については金融機関へ確認する必要がある。

カウントされたエラー回数は、正常に取引ができた場合、または閉塞解除を行った場合にクリアする。

(B) 金融機関による設定

金融機関の運用により、閉塞を設定する。

C. 閉塞の解除

金融機関の運用により閉塞を解除する。なお、閉塞解除を実施しない限り、翌日以降も閉塞状態が継続される。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(4) 保存期間

本システムにおいて、正常に受付けたデータを保存する期間は、加入者センタからの依頼データ送信日から暦日基準で62日間とする。

(5) 最大ファイルサイズ

最大ファイルサイズは圧縮前で20MBを上限とする。

最大ファイルサイズを超えるデータを集信した場合は、受信応答後のチェックにてエラーとし、返却データにて加入者へエラーを連携する。エラーとなったファイルは、加入者センタにてファイル分割作業を実施し、再度集信を実施する。

(6) 圧縮形式

本システムにおいて、伝送時のデータは圧縮を推奨とする。

圧縮する場合、加入者はパスワードなしのZIP形式で圧縮したファイル*1を本システムへ送信する。

（注）*1　本システムは、JX手順で指定可能な圧縮形式より、ZIP形式を採用する。圧縮したファイルはbase64エンコード後にsoap bodyのdataに設定し本システムへ送信する。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.2.2. 照合

照合有無に応じた処理概要を「表 3.2-3 照合有無に応じた処理概要」に示す。照合の利用有無については金融機関へ確認する必要がある。処理のイメージは別紙『業務フロー一覧』を参照。

表 3.2-3 照合有無に応じた処理概要

項番	照合有無	処理概要
1	照合を行う	依頼データに対応する照合データを加入者センタから本システムへ送信する。本システムでは依頼データと照合データにより照合を行う。依頼データは事前に送信され、本システムに格納されていることを前提とする。*1正常に照合が行われた場合、依頼データを本システムで受付済とし、即時に金融機関センタでの処理を開始する。処理のイメージを「図 3.2-1 照合概要」に示す。
2	照合を行わない	照合を行うことなく、依頼データを受け付けた時点で即時に金融機関センタでの処理を開始する。

(注)*1 照合データのファイルサイズは(依頼データサイズにかかわらず)小さいので、依頼データの後から照合データを送信しても、依頼データより先にチェックが完了し格納される可能性がある。この場合、依頼(pain1)未受領NG (MCH-ID01(02600))のエラーとなるため、再度、照合依頼が必要となる。このため、依頼データ送付後、数分の間隔を開けてから、照合データを送付する事が望ましい。

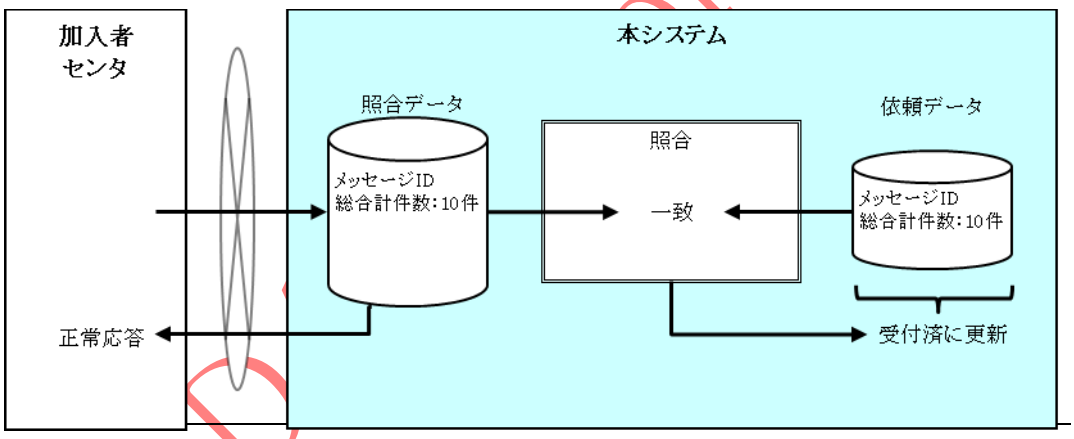

図 3.2-1 照合概要

(1) 基本事項

「3.2.1.(1) 基本事項」と同様。

(2) チェック処理

「3.2.1.(2) チェック処理」と同様。

また、チェック内容について詳細は別紙『業務フロー一覧』の「表 1.2-2 チェック項目一覧1」、「表 1.2-3 チェック項目一覧2」を参照。

(3) 照合処理

A. 照合データの正当性確認

照合データが正規の加入者センタから送られていることを確認するため、照合識別コードが加入者契約情報に登録された内容と一致しているかチェックを行う。不一致の場合には照合エラーとする。

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

B. 照合のキー項目

照合について、キーとなる項目を「表 3.2-4 照合のキー項目」に示す。

表 3.2-4 照合のキー項目

項番	照合項目	タグ	備考
1	メッセージID	GrpHdrの MsgId	照合ファイルと対応する外国送金依頼ファイルのメッセージIDを設定する。
2	総合計件数	GrpHdrの NbOfTxs	照合ファイルと対応する外国送金依頼ファイル全体に含まれる明細件数を設定する。
3	照合識別コード	AsrSpの mtchkey	加入者契約情報のファイル情報に、加入者が指定した任意の値を登録可能。登録された内容と一致しているかチェックを行う。

C. 依頼データとの照合

照合データと依頼データの内容が一致しているかチェックを行い*1、一致した場合に受付済とする。不一致の項目があった場合には照合エラーとする。照合エラーのイメージを「図 3.2-2 照合(不一致)」に示す。

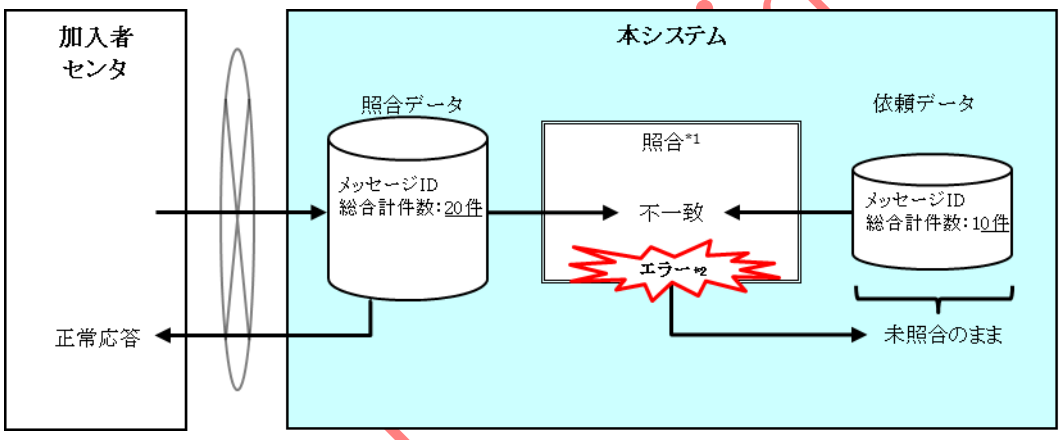

図 3.2-2 照合(不一致)

(注)*1 依頼データのメッセージID、照合識別コード、総合計件数をキーに照合を実施する。照合時限のチェック等も実施する。チェック内容について詳細は別紙『業務フロー一覧』の「表 1.2-2 チェック項目一覧1」、「表 1.2-3 チェック項目一覧2」を参照。

(注)*2 加入者センタへのエラーの連携は、加入者からの結果取得依頼時にエラーファイルを送信して行う。詳細については別紙『業務フロー一覧』の「図 1.2-4 加入者センタ集信(照合電文)エラー(依頼データ受付済)フロー」を参照。

(A) 複数の送金依頼情報を含む依頼データの照合

本システムにおいて、送金依頼情報を複数もつ依頼データの照合を行う場合、1つの照合データですべての送金依頼情報について照合を行う。

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

D. 照合エラー時の後処理

本システムは、加入者センタへの受信応答を行った後で照合処理を行う。

エラーが発生した場合、本システムは加入者センタからの結果取得依頼を受けてエラーデータを返却する。加入者センタにて返却されたデータを確認し、受付仕掛中となっている場合にはエラー原因を取り除き、再度照合データを送信する必要がある。

パターンごとの詳細については別紙『業務フロー一覧』の「1.2.(3) 加入者センタ集信エラー（照合電文）」を参照。

返却データのフォーマットについて、詳細は『AnserDATAPORT® JX手順接続インタフェース解説書【加入者編】』を参照。

(4) 依頼データの取消し

照合データの「取消実施区分」に「1」（取消実施）を設定した照合データを集信することで、未照合の依頼データの取消しを可能とする。照合不要、および照合済の依頼データの取消しは不可とする。また、取消しを行った依頼データの照合も不可とする。処理のイメージを「図 3.2-3 依頼データの取消し」に示す。

詳細は『AnserDATAPORT® JX手順接続インタフェース解説書【加入者編】』を参照。

なお、取消した依頼データを同日中に再度集信する場合は、異なる最新のメッセージIDを指定する必要がある

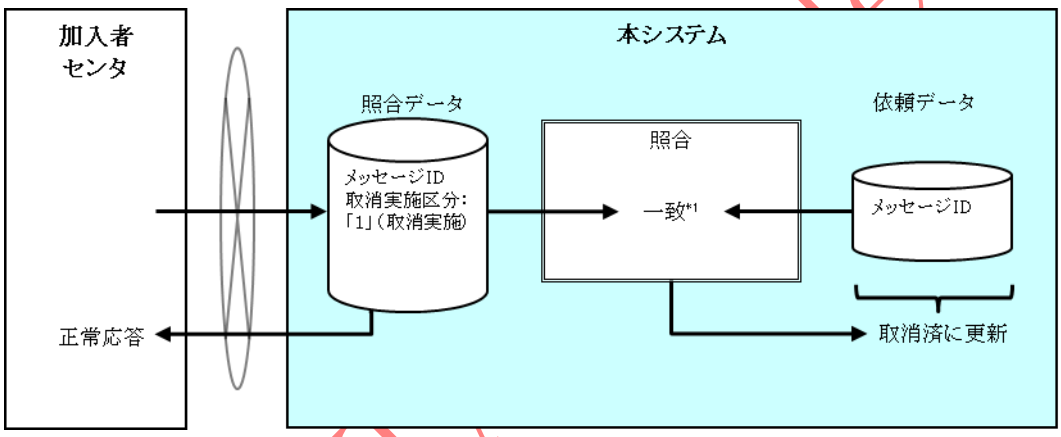

図 3.2-3 依頼データの取消し

（注）*1 取消しの際のキー項目は、照合識別コードを除き、照合処理と同様。
（照合識別コードの設定有無は任意）

(5) 照合時限

依頼データに設定された指定日より、照合データが金融機関の設定する受付可能期間内であることのチェック*1を行う。受付可能期間の設定内容については金融機関への確認を必要とする。なお、依頼データが複数の送金依頼情報をもち、送金依頼情報毎に指定日が異なる場合、照合時限が最も早いものをファイルの照合時限とする。

照合時限を経過した依頼データは未照合のまま本システム内に残り、データの保存期間到来日のファイル伝送サービスの運転時間終了後に削除される。

（注）*1 指定日が時刻を含めて設定されている場合においても、受付可能期間内チェックは日付部分のみを参照して行う。

(6) 伝送の規制と解除

「3.2.1.(3) 伝送の規制と解除」と同様。

(7) 保存期間

本システムにおいて、正常に受付けたデータを保存する期間は、加入者センタからの照合データ送信日から暦日基準で62日間とする。

NTT DATA Confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(8) 圧縮形式

本システムにおいて、伝送時のデータは圧縮を推奨とする。

圧縮する場合、加入者はパスワードなしのZIP形式で圧縮したファイル*1を本システムへ送信する。

（注）*1　本システムは、JX手順で指定可能な圧縮形式より、ZIP形式を採用する。圧縮したファイルはbase64エンコード後にsoap bodyのdataに設定し本システムへ送信する。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.2.3. 加入者センタ配信

加入者センタからの配信要求を元に、本システムでは金融機関センタまたは本システムで作成した返却データを加入者センタへ送信する。処理のイメージは「図 3.2-4 加入者センタ配信概要」、別紙『業務フロー一覧』を参照。

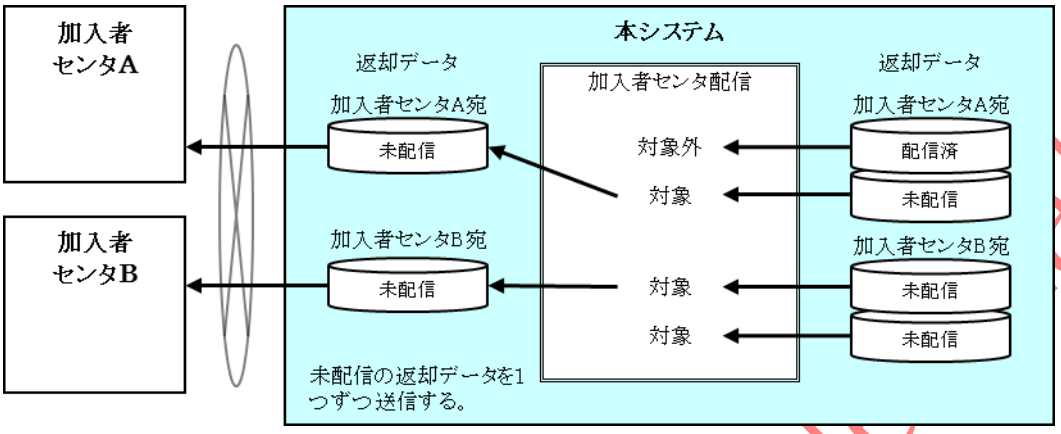

図 3.2-4 加入者センタ配信概要

(1) 基本事項

A. 配信単位

「金融機関センタ＋加入者センタ＋データ種別」の単位で、未配信のデータ*1を送信する。

(注)*1 当日発生したデータ、および前日以前より未配信となっているデータ。

B. 配信契機

加入者センタからの起呼により、加入者センタ配信時間の範囲内で随時可能とする。

なお、未配信のデータが複数ある場合、本システムは最も古いものから1つを送信する。

未取得の場合には、随時結果取得依頼を行い、必ず取得すること。

また、返却データは依頼日当日中に返却されない可能性があるため留意する必要がある。

C. データ0件時の運用

結果取得依頼時に未配信のデータが存在しない場合、JX手順上のファイルなし応答を行う。

D. 取引制限

「3.2.1.(1).C 取引制限」と同様。

(2) 伝送の規制と解除

「3.2.1.(3) 伝送の規制と解除」と同様。

(3) 未配信データの取得可能期間

金融機関センタからの返却データ受信日、または本システムでの返却データ作成日から、暦日基準で62日間とする。

(4) 最大ファイルサイズ

最大ファイルサイズは圧縮前で20MBを上限とする。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(5) 圧縮形式

本システムは依頼データを圧縮ありで送付した場合は、パスワードなしのZIP形式で圧縮したファイル*1を加入者へ送信する。

なお、依頼データを圧縮なしで送付した場合は、圧縮なしのファイルを加入者へ送信する。

（注）*1　圧縮したファイルはbase64エンコード後にsoap bodyのdataに設定し加入者へ送信する。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

3.3. 試験機能

加入者センタと本システムの間のネットワーク機器の相性や、ファイルインタフェースの正当性確認を目的とし、加入者センタテストを行う。

3.3.1. 加入者センタテスト

加入者センタテストは、金融機関が登録した加入者センタテスト用の伝送情報*1を利用して、加入者センタは本システムとファイル伝送を行う。加入者センタテストで使用するファイルフォーマットについては、『AnserDATAPORT® JX手順接続インタフェース解説書【加入者編】』を参照。

（注）*1　伝送に必要な情報。URI、識別子、Basic認証情報、照合識別コード等のこと。

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(1) 加入者センタテストのサポートデータ

JX手順での加入者センタテストにおいてサポートするデータを「表 3.3-1 サポートデーター覧」に示す。また、サポートデータの流れについて「表 3.3-2 データの流れ」に示す。

表 3.3-1 サポートデーター覧

項番	取引種別	データ種別	データ分類	ビジネス文書の形式	ビジネス文書の種別(識別子)	データ説明	使用するXMLファイル形式
1.	外国送金	依頼明細(外国送金)	依頼データ	Foreign Remittance	Foreign Remittance Request	外国送金を行うための依頼データ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02(head.001.001.02) ・CustomerCreditTransferInitiationV09(pain.001.001.09)
2.		照合データ(外国送金)	照合データ		Match	依頼データ(外国送金(依頼明細))と照合を行うためのデータ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02(head.001.001.02) ・本システムで規定する照合フォーマット
3.		処理結果明細(外国送金)	返却データ		Foreign Remittance Result	外国送金の結果データ	下記2つのXMLファイルを連結したファイル。 ・BusinessApplicationHeaderV02(head.001.001.02) ・CustomerPaymentStatusReportV03(pain.002.001.10)

表 3.3-2 データの流れ

項番	データ分類	データの流れ	
		加入者センタ(テスト用)	本システム
1	依頼データ		⇒
2	照合データ		⇒
3	返却データ		⇐

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

(2) 通常の伝送との機能差異

通常の伝送と加入者センタテストとの機能差異を以降に示す。

A. 加入者センタ集信

通常の伝送との機能差異を「表 3.3-3 加入者センタ集信時の機能差異」に示す。

表 3.3-3 加入者センタ集信時の機能差異

項番	項目	通常	加入者センタテスト
1	伝送情報	加入者センタ単位に個別に登録した伝送情報を使用する。 ※詳細は「2.3.加入者契約情報管理」を参照。	加入者センタテスト用に登録した伝送情報を使用する。
2	受付チェック	通常のチェックを行う。	①設定された委託者コードが、本システム内の同一取引種別配下に登録されている委託者コードと一致すること。 指定日が、同一送金依頼情報内にある委託者コードの、適用開始日と適用終了日の範囲内であることのチェックは行わない。
			②受付可能期間内チェックは行わない。
			③上記①および②以外のチェックについては通常と同様。

B. 照合

通常の伝送との機能差異を「表 3.3-4 照合時の機能差異」に示す。

表 3.3-4 照合時の機能差異

項番	項目	通常	加入者センタテスト
1	伝送情報	「表 3.3-3 加入者センタ集信時の機能差異」項番1と同様。	
2	受付チェック	通常のチェックを行う。	①受付可能期間内チェックは行わない。
			②上記①以外のチェックについては通常と同様。

C. 加入者センタ配信

通常の伝送との機能差異を「表 3.3-5 加入者センタ配信時の機能差異」に示す。

表 3.3-5 加入者センタ配信時の機能差異

項番	項目	通常	加入者センタテスト
1	伝送情報	「表 3.3-3 加入者センタ集信時の機能差異」項番1と同様。	

NTT DATA confidential

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION

NTT DATA confidential

無断での複写ならびに複製を禁ず

AnserDATAPORT® JX手順 サービス仕様書【加入者編】

Copyright© 2023-2025 NTT DATA CORPORATION
記載されている製品名は、各社の登録商標または商標です。
AnserDATAPORTは株式会社NTTデータの登録商標です。
ANSERは株式会社NTTデータの登録商標です。
pipitLINQは株式会社NTTデータの商標です。
なお、本文中では商標表示（TM、®）を付記しておりません。

【発行者】 株式会社 NTTデータ
第三金融事業本部